

京都フードテック構想（中間案）の概要

I 構想の趣旨

食を取り巻く社会情勢の急激な変化を踏まえ、世界に誇る京都の食文化や高い栽培技術と進化し続ける最先端技術を融合させ、京都の農林水産業を含む食関連産業（以下「食関連産業」という。）の振興を図る。

II 構想策定の背景・課題

1 構想策定の背景

- (1) 世界人口の増加
- (2) 国内の少子高齢化等の社会構造の変化
- (3) 温暖化等の自然環境の変化
- (4) 社会情勢や新型コロナウイルス感染症の拡大による消費者志向の変化
- (5) 京都府産品のブランド力の相対的低下
- (6) ユネスコ無形文化遺産登録を契機とした国内外での和食文化への評価の高まり

2 京都府の農林水産業の課題

- (1) 京都府の農林水産業の特徴に適応した省力化や熟練技術の継承などのためのスマート技術の開発・実装
- (2) 気候変動下において高品質・低コスト生産が可能な品種や栽培技術等の開発・普及
- (3) 健康機能性やオーガニックなど新たなブランド価値を付加した新品種・栽培技術の開発と加工食品の開発・商品化
- (4) 国内市場の縮小や海外における和食ブームに対応する輸出など広域流通のための保存技術等の開発・実用化

III 基本的な考え方

1 目指すべき方向

京野菜や宇治茶などの伝統的な栽培技術や、大学・世界的企業など最先端技術の集積、世界に誇る食文化や府民の進取の気質などの京都の強みを融合するフードテックの取組を通じて、京都の食関連産業が抱える課題の解決を図り、京の食の高付加価値化と競争力の強化による成長産業化を目指す。

【構想を推進する上での5つの視点】

- 1) ニーズファーストの徹底
- 2) 最先端技術と食文化を融合する多様な主体によるオープンイノベーション
- 3) 世界トップレベルの企業との連携
- 4) 持続可能性に配慮した事業の構築
- 5) 京都のブランド力の世界への発信

2 計画期間

令和4年度（構想策定年度）から令和10年度まで

IV 構想を実現するための方策

1 京都府農林水産技術センターによる京都ならではのフードテックに関する研究開発

(1) 研究テーマの重点化

生産現場や食関連産業のニーズを踏まえ、新たな付加価値の創出やこれを付加した食品加工分野の研究等、食関連産業の振興に資する研究を重点化して実施。

(2) 研究体制の構築

① 一次産業の研究拠点の機能強化

- ・ 農林水産技術センターを機能強化し、フードテックを活用した次世代型農林水産業の実現に向けた生産技術の研究開発・実証及び人材育成拠点を整備。

② 機能性加工食品等付加価値の高い「中食」の開発拠点の整備

- ・ 食にかかわる産学公民のオープンイノベーションにより京都の食文化等を活かした商品を開発等を行う「未来の中食」研究開発拠点を南部市場に整備。

③ 「食」の最先端研究と関連製造企業の集積拠点の整備

- ・ 最先端研究と食関連製造業の集積拠点を学研都市南田辺・狛田地区に整備。

(3) 大学、研究機関、企業等とのネットワークの構築

① 「京都フードテック研究連絡会議（仮称）」の創設

- ・ 農林水産技術センターのリエゾン機能を強化し、和食文化など多様な分野を含めた共同研究を推進。各機関の技術情報を集積、公開。

② 「学研フードテック研究部会（仮称）」の創設

- ・ けいはんな学研都市において、研究の枠組みを組成するなど世界的な食料に関する課題解決に貢献。（2）③の研究開発の成果を府内に還元。

2 新商品や新サービスを創出するオープンイノベーションの体制強化と支援

(1) 京都食ビジネスプラットフォームの体制強化

① 「フードテック部会」の設置

- ・ 国内外の最先端技術を有する企業等の参画を得て、企業ニーズ抽出の枠組みを構築。
- ・ 商品化の取組みを伴走支援するプロデューサーを配置。

② 研究シーズと企業ニーズのマッチングを図るコーディネーターを配置

- ・ 2, 30年後を見据えた研究シーズの選択から新商品の企画までを一貫支援。

③ 海外を含む京都府内外の食関連技術情報の集約と企業間をつなぐイベントの開催

- ・ 最先端の食関連技術の展示会やマッチングイベントの開催。

(2) フードテックの実用化に向けた京都府のサポート

① 農林水産物の生産分野

- ・ ワンストップ相談窓口の設置やセミナー・展示会の開催による情報提供、補助金による技術の実装支援を実施。

② 商品・サービス開発分野

- ・ 農林漁業者や食品加工業者、大学・研究機関、食文化に携わる人材など幅広い連携により、農林水産物の生産、加工、流通・販売の各段階において、消費者ニーズを踏まえた新たな付加価値を生み出す「京ものブランドサプライチェーン」の構築に向けた伴走支援を実施